

**日本の視覚障害教育の
現況と課題
～専門性の継承・発展～**

札幌大学 学生相談室

鈴木重男

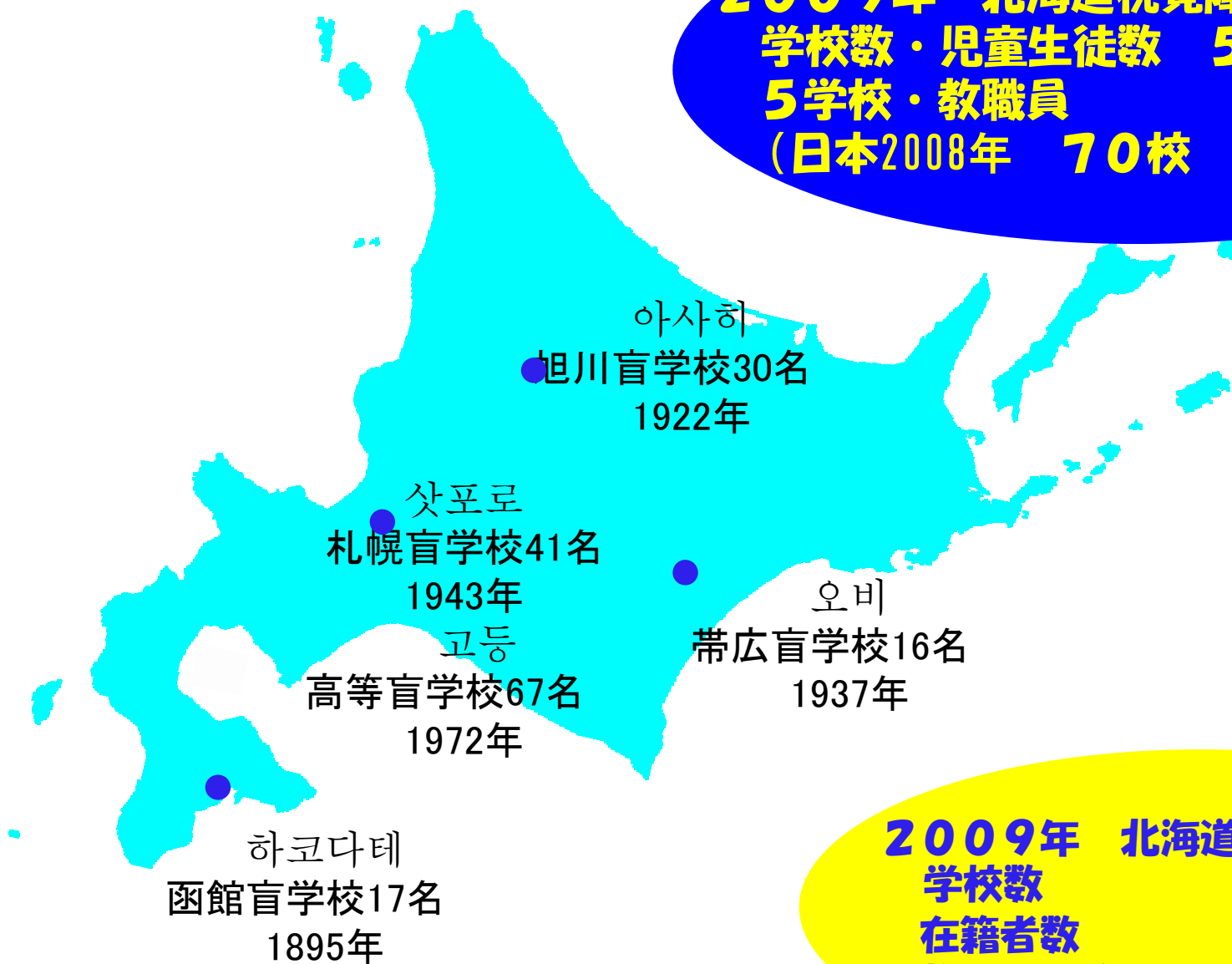
北海道の面積 ≒ 83,550 km²

2009年 北海道視覚障害特別支援学校

学校数・児童生徒数 5校 171名

5学校・教職員 260名

(日本2008年 70校 2,709名)



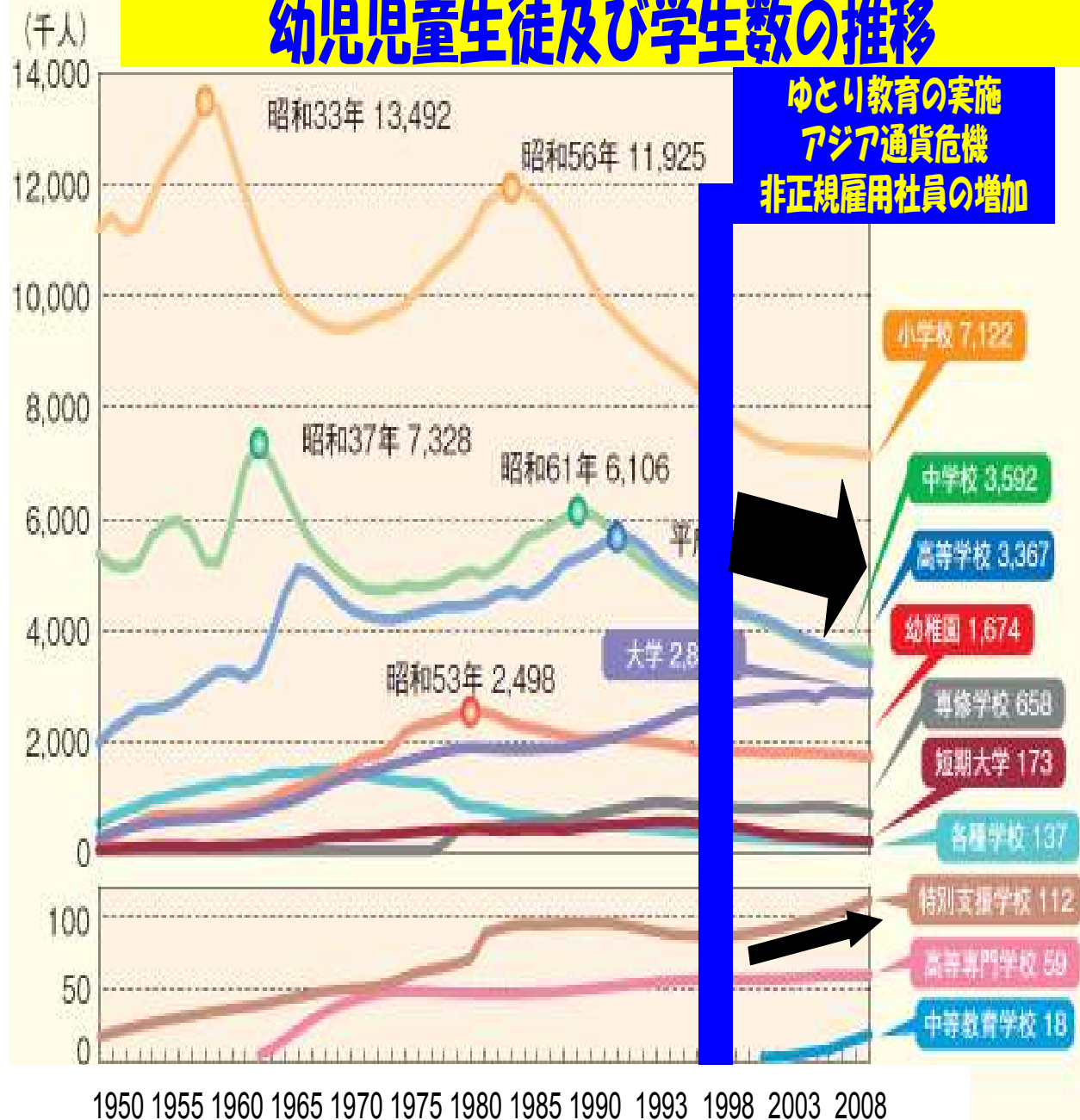
2009年 北海道の特別支援学校

学校数 62校

在籍者数 4,748名

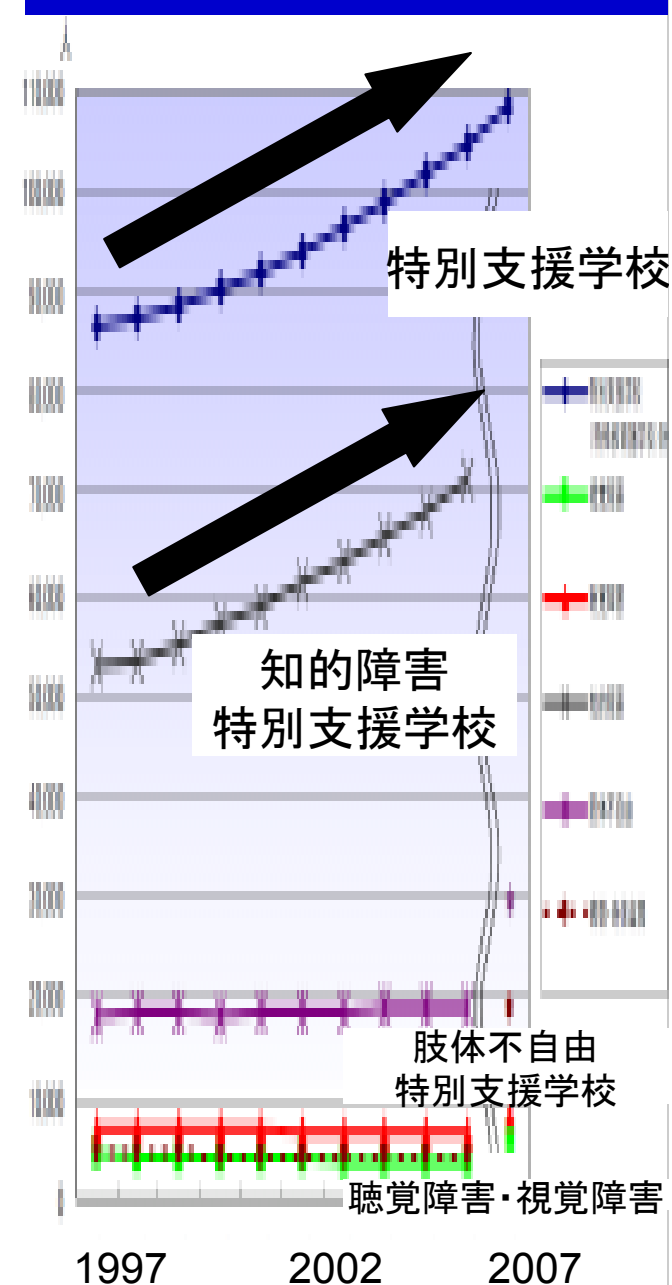
教員（本務者） 4,523名

幼児児童生徒及び学生数の推移



文部科学省「データから見る日本の教育」2008 より引用・改変

特別支援学校 在籍者数



日本の盲学校教育の現況

2009年度 視覚障害特別支援学校 在籍者数

70校 1,295学級

幼稚部 265名

小学部 665名

中学部 481名

高等部 2,077名

合 計 3,488名

視覚障害児童生徒の推計
視覚障害特別支援学校小・中学部
在籍率 0.01%

人口100万人の県

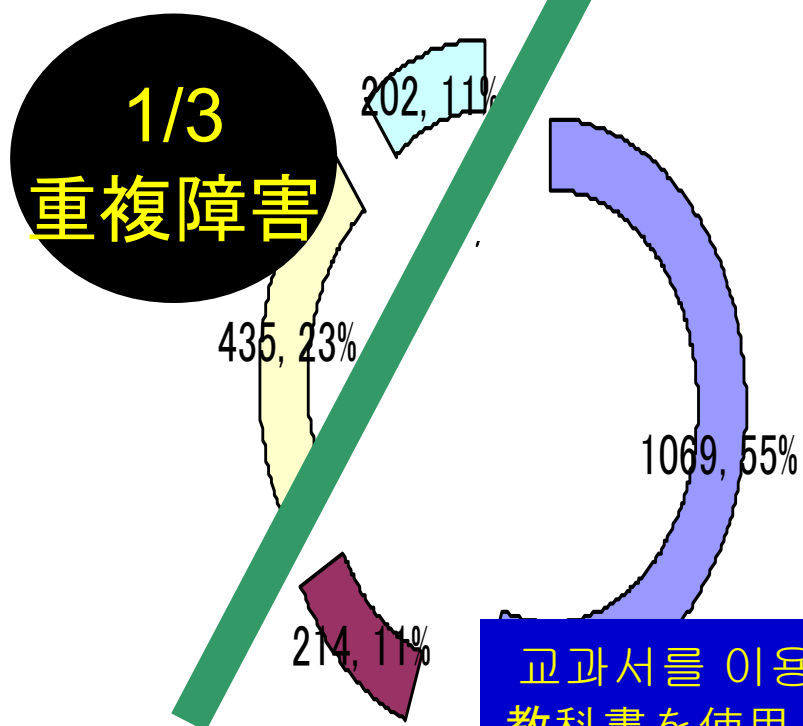
○視覚障害特別支援学校小・中学部
約10名

○通常学級に在籍する視覚障害児
約16名

○小・中学校弱視特別支援学級
約 3名

2008年度 全国視覚障害特別支援学校 教育課程別人数

- 準ずる教育課程
- 下学年教育課程
- 知的障害教育課程
- 自立活動教育課程

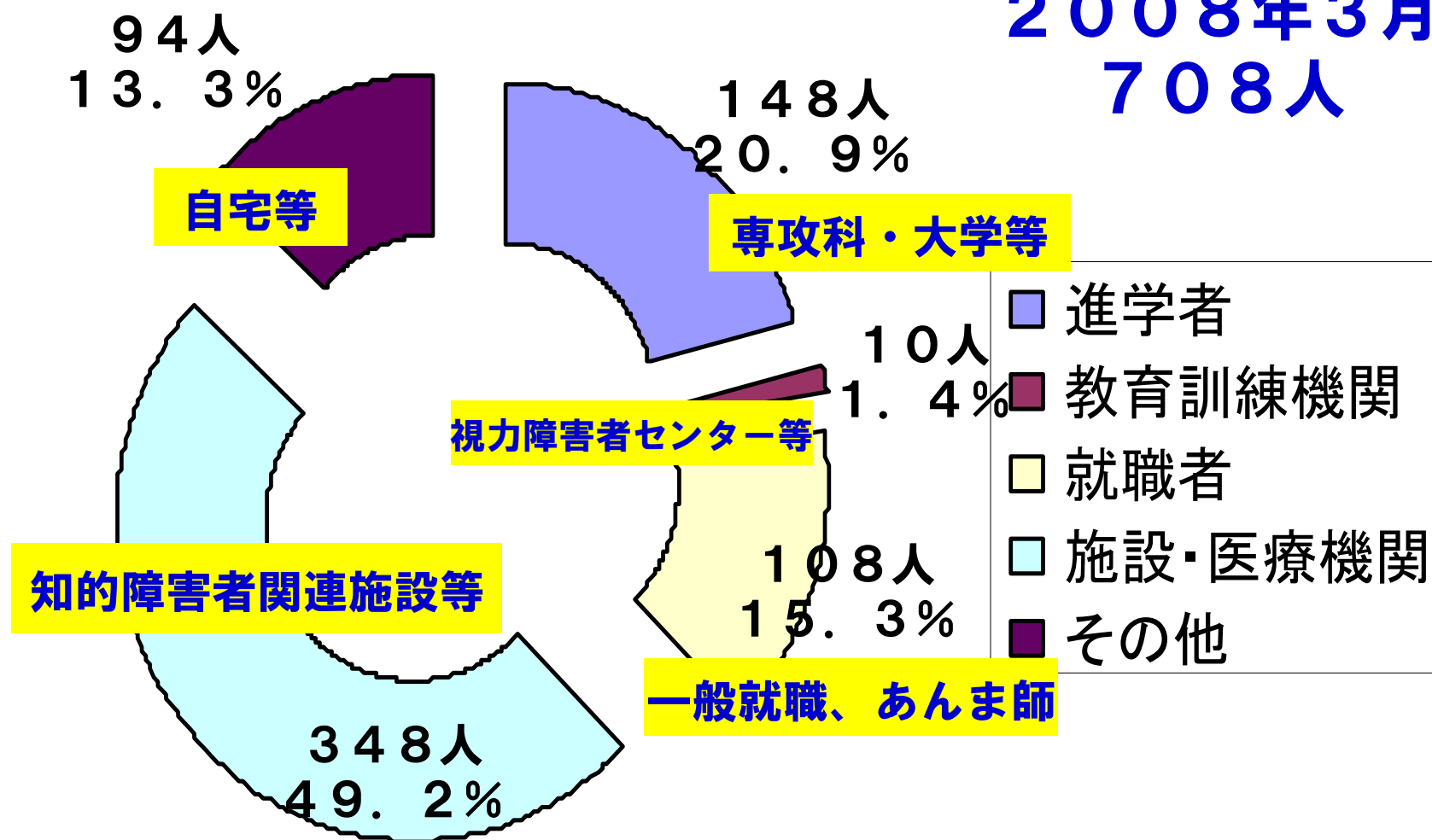


区分	小学部	中学部	高等部
준하는 교육 과정 準ずる教育課程	278	207	584
아래 학년 교육 과정 下学年教育課程	80	66	68
지적 장애 교육 과정 知的障害教育課程	191	117	127
자립 활동 교육 과정 自立活動教育課程	93	51	58

1/3
중복 장애
重複障害

視覚障害特別支援学校高等部本科卒業後の進路

2008年3月
708人



全国盲学校高等部入学者内訳

区分	高等部		
	本科	専攻科	計
盲学校 中学部より	147	113	260
中学校・高 等学校より	56	27	83
社会人入 学	64(24%)	270(66%)	334(49%)
計	267	410	677

学齢者の学校教育か。視覚障害成人の視覚障害者福祉か。

視力障害者センター : 所沢、函館、塩原、神戸、福岡
視覚障害特別支援学校 : 全国全都道府県

2008 理療国家試験 合格率

第17回きゅう師国家試験 学校別合格者状況

区分	総 数			新 卒			既 卒		
	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率
晴眼者の養成校の合計	4843	3895	80.4%	3984	3656	91.8%	859	239	27.8%
視力障害者の養成校の合計	477	276	57.9%	330	257	77.9%	147	19	12.9%
総合計	5320	4171	78.4%	4314	3913	90.7%	1006	258	25.6%

1) 盲学校等の視力障害者の養成校(養成施設)は各学校別は割愛し、合算して「視力障害者の養成校の合計」として表記
2) 合格率は%

第17回あん摩マッサージ指圧師国家試験 学校別合格者状況

学 校 名	総 数			新 卒			既 卒		
	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率
晴眼者の養成校の合計	1210	1156	95.5%	1172	1154	98.5%	38	2	5.3%
視力障害者の養成校の合計	644	409	63.5%	480	393	81.9%	164	16	9.8%
総合計	1854	1565	84.4%	1652	1547	93.6%	202	18	8.9%

1) 盲学校等の視力障害者の養成校(養成施設)は各学校別は割愛し、合算して「視力障害者の養成校の合計」として表記
2) 合格率は%

財団法人東洋療法研修試験財団は2009年3月24日、第17回きゅう師国家試験の合格発表の資料として「学校別合格者状況」を公表

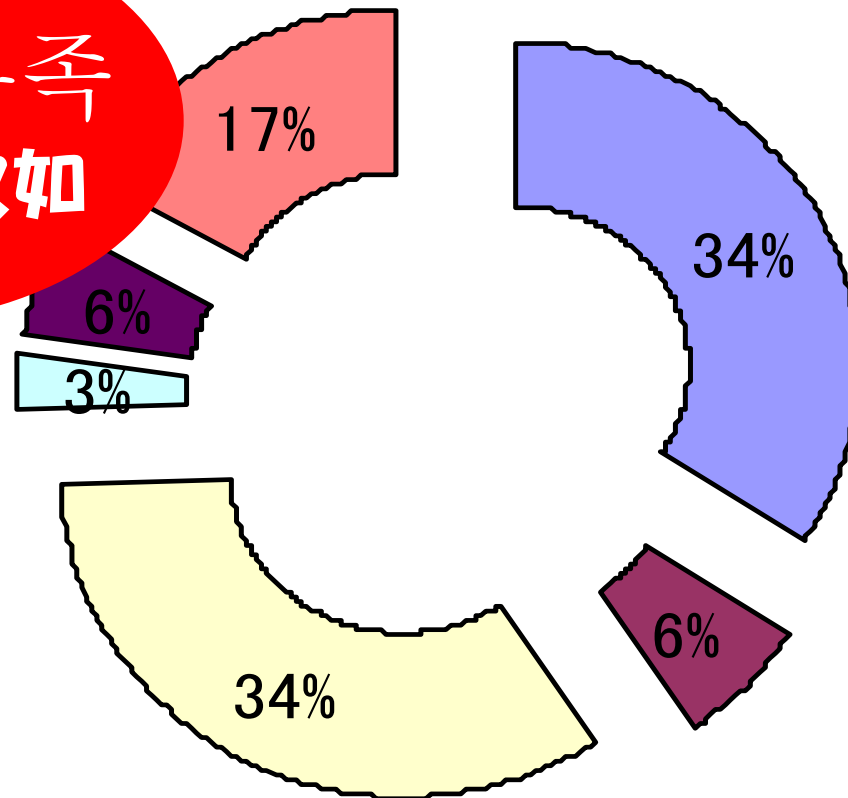
視覚障害特別支援学校教員の当該学校種免許所有率

전문성 부족
専門性の欠如

시각 장애인 자립 활동
면허 소유

視覚障害・自立活動
免許所有

1/3



신뢰성의 저하
信頼性の低下

■ 視覚障害

■ 聴覚障害

■ 知的肢体病弱

■ 自立活動

■ その他

■ 未所有

盲学校の 伝統的専門性が 消えていく

点字指導

Orientation & Mobility

専門性を育て磨き上げる



鈴木 重男

北海道立特殊教育センター所長

○専門性は消えるもの

私が奉職した三五年前当時は、北海道内の各盲学校ではそれぞれの学校が独自に工夫した指導内容・方法が受け継がれており、どの学校でも視覚障害教育の専門性に基づいた指導がなされていた。その高い専門性を誇っていた北海道内の盲学校に、後日、校長として勤めたとき、盲学校の伝統的な専門性が消えてしまった衝撃的な体験をしました。

A盲学校に赴任した最初の冬のことです。子どもたちの玄関前は初雪が積もり、真っ白でした。ちょうど、そこに白杖を携えた盲児がやってきました。その子の歩行指導の時間でした。私は、校長室で執務してから、また玄関に行ってみました。すると、さっきの白杖を携えた盲児が、まだ玄関前の雪の中にいて、学校前の道路に出て行くことができません。私は、「どうして、さっきから同じ所をうろうろしているのですか」と先生に聞いてみましたところ、「雪で点字ブロックが隠れてしまいい。子どもがそれを探せず、立ち往生しているのです」と話してくれました。このことにより、点字ブロックを頼りにする歩行指導をするあまり、歩行指導の基本である玄関前の環境構成

や玄関と道路との位置関係などをきめ細かく指導していなかった実態が明らかになりました。

また、次に赴任したB盲学校では、重複障害学級の授業で点字を使う盲児が少ないので「どうして子どもたちに点字を指しないのですか」と先生方に聞いてみました。すると「このたちは、重複障害児でまだ点字を学ぶまでの発達段階には至っておりませんので、知的障害養護学校の教育課程に基づいた指導をしています」となんの疑いもなく話し、その後も点字指導するそぶりがありません。私は、七月に入ってから、幼稚園と小学部重複障害学級の点字を使用すべき子どもたち一人一人に対して、一人に二時間程度をかけて、子どもたちの手を取って、ボディイメージや数概念、触察による図形概念の形成状態などを調べてみました。すると点字をすぐにでも指導できず、着席しての対面指導が可能になれば点字指導ができる子、手指の動きを統制できれば点字指導が可能な子などと判断できる子どもたちが多くいました。当然、この結果を担任に説明し、保護者にも伝えて、二学期からは、教育課程を点字指導・点字の触読を可能にする教科指導を行うよう抜本的に変更しました。

盲学校で重要と考える専門性

重要と考える専門性

1	点字の指導力	57.1%
2	各教科の指導力	45.7%
3	弱視児への指導力	42.9%
4	視覚障害教育の基礎的理解	38.6%
5	歩行等の自立活動の指導力	32.9%
6	重複障害児の指導力	28.6%
7	職業教育の指導力	21.4%
8	触察等の指導力	17.1%
9	視覚機能検査等の指導力	11.4%
10	生活指導の指導力	4.3%
11	その他	0%

専門性：不易流行

高校時代に身につけておくべき力

全国高等学校長協会特別支援学校部会・全国盲学校長会大学進学対策特別委員会
視覚障害学生実態調査報告書 平成21年6月

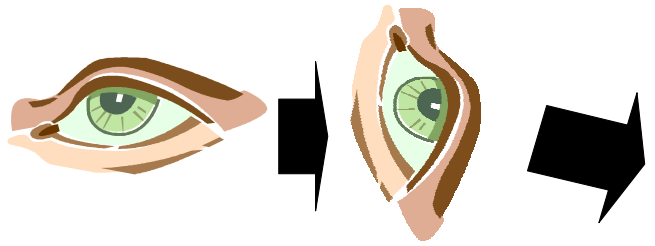
時代を通して変わらざるものと

- ★白杖で自由に移動できる力
- ★必要な支援を把握し、適切に依頼できる力
- ★他学生や職員とコミュニケーションできる力
- ★全てを任せにせずに積極的に関与する力
- ★レポートを書くために必要な普通文字の知識

時代が必要とするもの

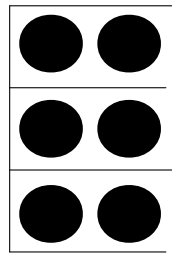
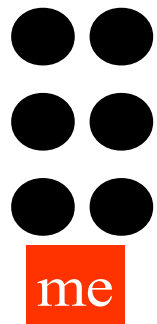
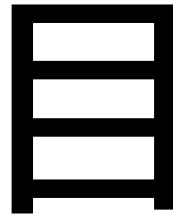
- ★パソコンや支援機器に関する活用力
- ★携帯用点字端末を活用し、ノートを取る力

점자 · 히라가나지도 点字·ひらがな指導

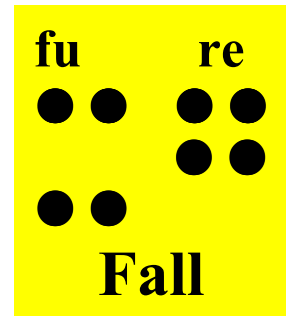
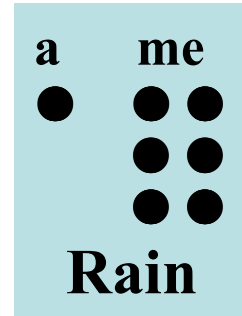


An idea of Mr. ISHIKAWA

Japanese letter



ISHIKAWA
kuraji
石川倉次
(1859~1944)
日本点字の翻案
1890年11月
1日に、正式採用



a	me	re	fu	u	i	ni	ku
●	●●	●●	●●	●●	●	●	●●
	●●	●●			●	●	
	●●		●●			●	●

鈴木式 難易別 点字触読指導

No. 1	A ●○ ○○ ○○	Me ●● ●● ●●	Re ●● ●● ○○	Fu ●● ○○ ●●	U ●● ○○ ○○	I ●○ ●○ ○○	Ni ●○ ●○ ●○	Ku ●● ○○ ●○	○○ ○○ ○○	○○ ○○ ○○	○○ ○○ ○○
No. 2	Ko ○○ ●○ ○○	Ka ●○ ○○ ○○	O ○○ ●○ ○○	Yo ○○ ○○ ●○	Hi ●○ ●○ ●●	Nu ●● ○○ ●○	No ○○ ●○ ●○	To ○○ ●● ●○	Na ●○ ○○ ●○	○○ ○○ ○○	○○ ○○ ○○
No. 3	Ta ●○ ○○ ●○	Sa ●○ ○○ ○○	Shi ●○ ●● ○○	Mi ●○ ●● ●●	Wa ○○ ○○ ●○	Mu ●● ○○ ●●	Ne ●● ●○ ●○	Mo ○○ ●● ●●	Tu ●● ○○ ●○	○○ ○○ ○○	○○ ○○ ○○
No. 4	Yu ○○ ○○ ●●	Su ●● ○○ ○○	Wo ○○ ○○ ●○	Ya ○○ ○○ ●○	Ha ●○ ○○ ●●	Ru ●● ○○ ○○	Ma ●○ ○○ ●●	So ○○ ●● ○○	Ki ●○ ●○ ○○	○○ ○○ ○○	○○ ○○ ○○
No. 5	He ●● ●○ ●●	Ke ●● ●○ ○○	Nn ○○ ○○ ●●	Ho ○○ ●○ ●●	Ra ●○ ○○ ○○	Se ●● ●● ○○	Ti ●○ ●● ●○	Ri ●○ ●● ○○	Ro ○○ ●● ○○	E ●● ●○ ○○	Te ●● ●● ●○

瀬尾政雄「入門期における点字読字能力の発達について」盲心理研究第14巻1966

小学部1年生4名の5月、6月の触読点字実態表が掲載

鈴木：5月段階で全員が触読可能点字は。誰もが容易に読むことが可能。

指導実践を加味して5段階に分類。

難易度1 (I-型)

い こ り に け た し も
|| || || || || || || ||

い：タテ線2本

り：左が短いタテ線

右が長いタテ線

け：左にタテ線、右に十字

し：左下のカギ線

こ：ヨコ線2本

に：左にタテ線

右に「こ」のヨコ線2本

た：左に十字

右下に「こ」のヨコ線2本

も：「し」の左下のカギ線に「こ」のヨコ線2本

難易度2 (V/型)

く へ て そ さ き ん え
く へ て そ さ き ん え

く：「し」の左下のカギ線を90度時計回りに回転

へ：「く」を90度時計回りに回転

て：「へ」を90度時計回りに回転

さ：「け」の左のタテ線を下に短く書く

ん：「し」のタテ線を右上から左下に斜めに書く

へ：「く」を90度時計回りに回転

そ：小さい「て」に続けて大きな「て」を書く

き：「け」の右の十字のヨコ線は「こ」。左のタテ線は「さ」と同じ位置に書く

え：「こ」に続けて「ん」を書く

難易度3 (コ型)

っ う か ち ら や と せ
っ う か ち ら や と せ

っ：「て」の下にヨコ線

か：「つ」と「い」の組合せ。「い」の左のタテ線を「つ」の上のヨコ線に貫いて書く。「い」の右のタテ線は「つ」から右に離して書く

ら：短いタテ線を書く。少し離してタテ線に続けて「つ」を書く

と：「つ」の鏡文字を書く。上ヨコ線の上にタテ線を置くように書く。

う：「こ」に続けて「つ」を書く

ち：十字に続けて「つ」を書く

や：「つ」と「い」の組合せ。「い」の左のタテ線を長く、右のタテ線は短く、「つ」の上ヨコ線に貫いて書く

せ：「し」と「十字」の組合せ。「し」のタテ線に「十字」のヨコ線を貫いて書く。

難易度4 (よ型)

よ ま は ほ す な む み
よ ま は ほ す な む み

「よ」のヨコ線の無い形を「基本形」とする。

よ：基本形タテ線上の右に短いヨコ線

は：「け」に続けて基本形

す：基本形の丸め終末部を下に長く伸ばす

む：「す」の丸め終末部を右に伸ばす。伸ばした線の終末部の上に「ちょん」

ま：「こ」に基本形

ほ：「は」の上のヨコ線は「こ」

な：左に「十字」。右はタテ「ちょん」。離して下に基本形

み：短いヨコ線を書き、引き続いて基本形を書いて、最終線を右に伸ばして、「十字」

難易度5 (O型)

の め ぬ あ お ゆ
の め ぬ あ お ゆ

「の」を5「基本形」とする。

の：基本形

め：「め」に続けて難易度4基本形

お：「十字」に続けて基本形、右上に離して「ちょん」

め：タテ線に基本形

あ：「十字」に基本形

ゆ：短いタテ線に続いて「つ」を書いて長いタテ線

難易度6 (U n型)

ろ る ひ わ れ ね ふ を
ろ る ひ わ れ ね ふ を

ろ：小さな「て」に続けて「つ」

ひ：「て」に続けて縦の「つ」。上を右に伸ばす

れ：「わ」の終末部を右に伸ばす

ふ：「ろ」の左右下に「ちょん」「ちょん」

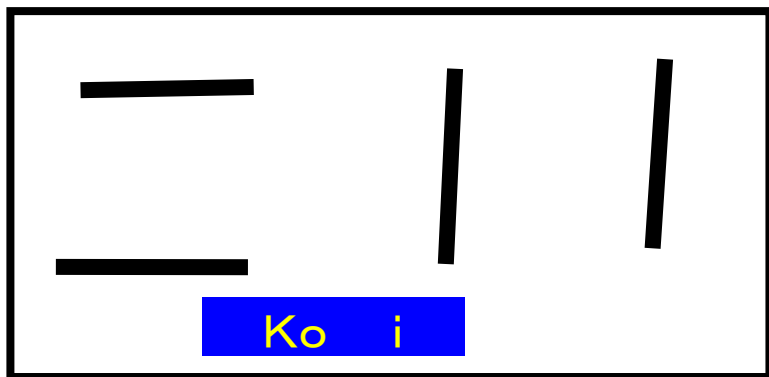
ろ：「ろ」に続けて難易度4基本形

わ：タテ線と「ろ」の組合せ

ね：「わ」に続けて難易度4基本形

を：「ち」と「と」の組合せ

히라가나 구조적인지도 방법
ひらがなの構造的指導法



鯉

Ko i



恋

사랑

Ko i

Orientation & Mobility 歩行指導



**札幌市内、1970年当時
北海道札幌盲学校の生徒の白杖**



盲児の歩行指導 鈴木のプロプログラム 概略

(1) 幼稚部

ア ボディイメージ

主要な体の部位名、基本的な動作
Laterality絶対的方向の強化

イ 軌跡

単純な歩行軌跡、音源定位、音源
移動軌跡

ウ 地図

室内ミニチュア
空間構成物の発見と賞賛

エ トレーリング、白杖探索

(2) 小学部低学年

ア ボディイメージ

細かな体の部位名、様々な動作
Directionality相対的方向の強化

イ 軌跡

図形的歩行軌跡、交差点における
交通音の流れ

ウ 地図

校舎内、学校敷地内、学校周辺

エ タッチ(ショートケーン、ガイドライン、スライド)テクニク

オ ルート歩行

近辺の店への買物：自立の一步

(3) 小学校高学年

ア 軌跡

図形的歩行軌跡(45度、90度、
135度、270度、315度)

太陽・気流を用いた閉鎖図形歩行

イ 地図

学校周辺

ウ 各種交通機関の使用

エ ルートによる単独帰省

(4) 中学部以上

ア 居住地読図歩行

イ 目的歩行

Comment

A special forum for individuals to respond in detail to material published in the Journal of Visual Impairment and Blindness or to raise issues which relate to the field of work with blind and visually handicapped persons. Contributions should be 350-1000 words in length.

Winter Traveling in Hokkaido Land, Japan

JOURNAL OF VISUAL IMPAIRMENT & BLINDNESS
Vol.79 No.1 1985.1 (USA AFB)

More than 20 to 30 cm. of snow re-

Winter Traveling in Hokkaido Land Japan

Sigeo Suzuki

Hokkaido High School for the Blind,
Fushimi, 4 Chome, Sapporo, Japan.

Translated by Hitoshi Shintani

Hokkaido, the second largest island in Japan, is located in the far north of the islands: at 45 degrees latitude, and 138 degrees longitude, it is covered with snow for six months of the year, from November to April.

As a trainer for winter traveling for 10 years in this area, I have developed some

systems which may be useful in similar climates.

1. Attachment for cane tips to prevent the tip of the cane from sliding on snow. I invented some attachments which enable the cane to be used easily, even swiftly. These attachments can be taken off and put on.

No. 1 and No. 2 can be used from 1971. But it was made too slippery. In 1972, I made a "spuit" made of rubber for the tip of the cane, developed No. 4. These have proven to be useful in snow.

2. Classification of snow according to the progress of the season.

a. Early stage (e-

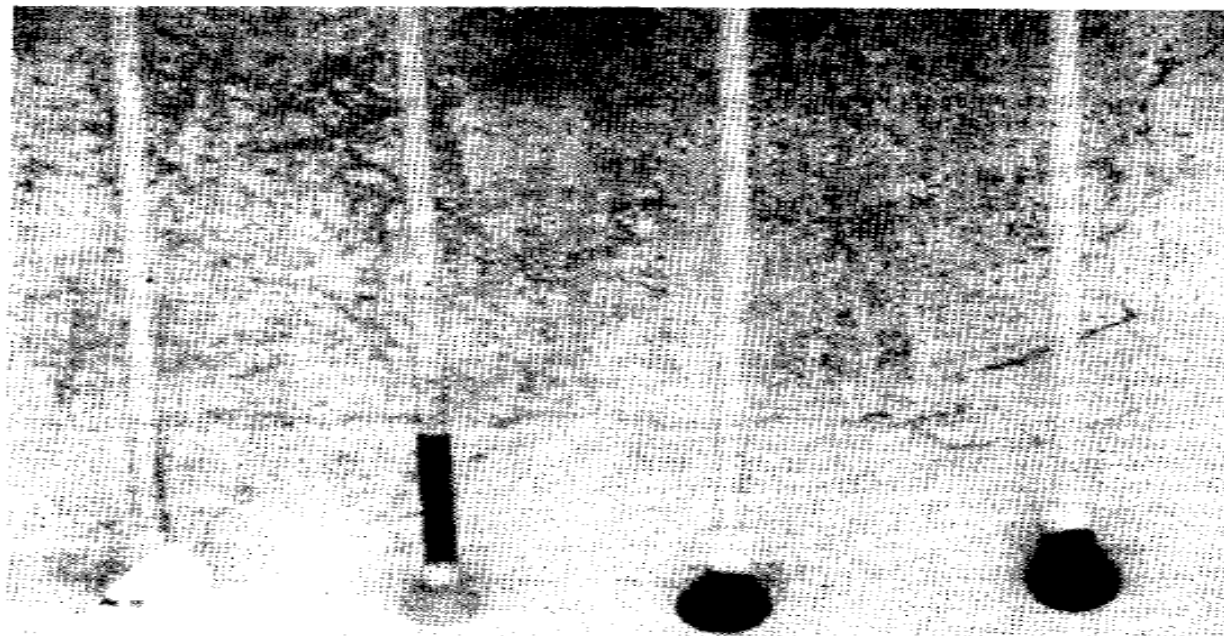


Figure 1. Cane tips modified to cope with winter conditions. The plastic tips found on the two canes on the left were too slippery for winter use. The two canes on the right were modified with the addition of rubber tips.



Figure 2. Sidewalks, designated as "clear paths" in Hokkaido, are usually kept somewhat clear of snow.

b. Middle stage (mid-December to mid-March: In this period, I divided the snow roads into five groups:

- (1) crossing: from a wide road to a wide road,
- (2) a crossing: from a wide road to a narrow road (Figure 3),



Figure 3. An example of a street intersection where a wide road becomes a narrow road.

- (3) a crossing: from a small road to a small road,
- (4) intersection of a wide street (Figure 4), and
- (5) intersection of a narrow street.

Knowing the type of crossing one faces helps determine the technique — and sometimes the route.

c. Late stage (end of March to the end of April): The surface of the road is

Winter Traveling in Hokkaido Land Japan



発光ダイオード

ガソリンエンジンと電気モーターを併用したハイブリッド車(HV)の走行音では、モーター走行は静かで目の不自由な人には車の接近がわかりにくいため、メーカーへ安全対策を求める声が出た。

Evaluating Methods for Teaching Orientation and Mobility with Sonicguide

Evaluating Methods for Teaching Orientation and Mobility with Sonicguide

JOURNAL OF VISUAL IMPAIRMENT & BLINDNESS
Vol.80 No.1 1986.1 (USA AFB)

Sigeo Suzuki

Hokkaido High School for the Blind, 4-21, 4-chome, Fushimi, Chuo ward, Sapporo, Japan

Abstract: Sonicguide (S.G.) serves the function of "an eye" for blind persons. To make most effective use of the Sonicguide, trainers must evaluate training methods. This report introduces one way of evaluating training with S.G., through the handling of miniatures and of schematic drawings.

The Function of S.G. for the Blind

Persons who are using S.G. can be divided into two groups: early, congenitally blind persons and later, adventitiously blinded persons. The type and level of their impairment requires different training methods.

Using S.G., newly blind persons must learn to make their visual images correspond to their experience when they could see. On the other hand, congenitally and early blind persons must first grasp spatial concepts, and get a sense of when they actually are. My aim in training blind persons with S.G. is to enable them to grasp their environment where they have to walk.

When I teach newly blind persons how to grasp their environment, I must evaluate them according to how much information they understand, and therefore how to deal with them. Early and congenitally blind persons must grasp spatial concepts by means of information acquired by S.G.

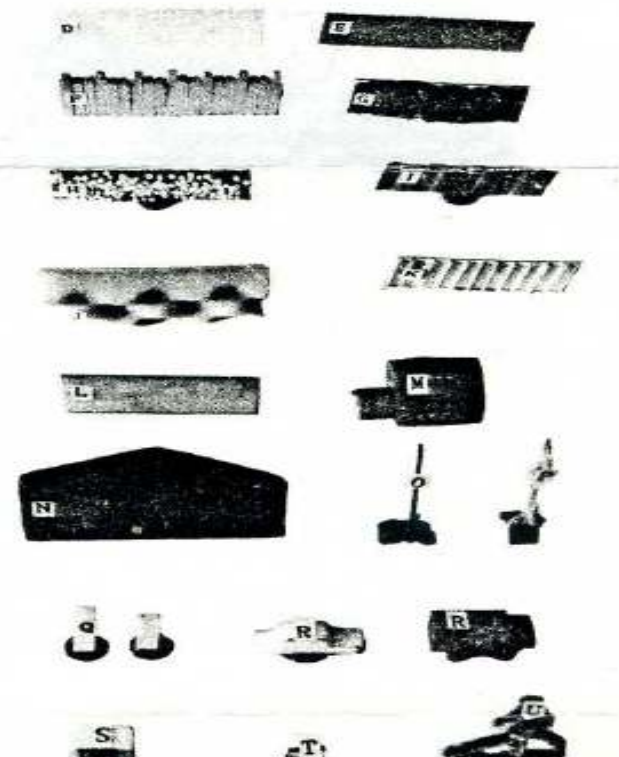
The Evaluation of Dealing with Information Provided by S.G.

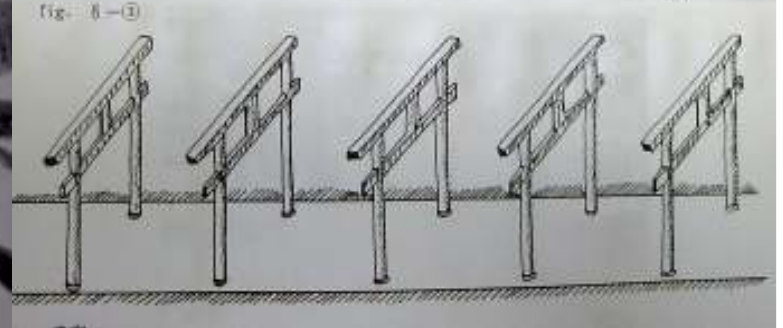
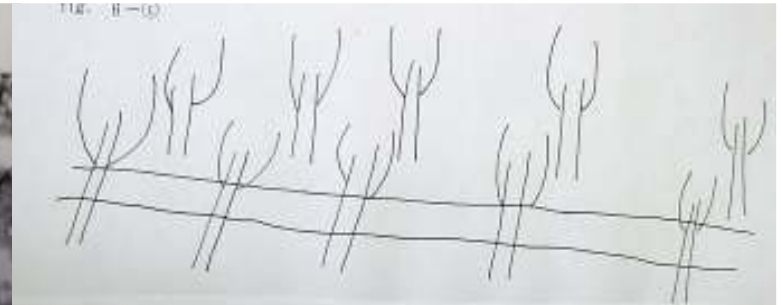
There are five basic ways to evaluate how to teach blind persons to deal with information provided by S.G.

1. Trainer observation of how the user behaves in his/her environment.
2. Trainee oral reports on their environment to their trainers.
3. Trainee written impression of the environment.
4. Trainee expression of visual images by making miniatures to show spatial concept via S.G.
5. Trainee expression of visual images by schematic drawings.

I would like to discuss the 4th ways indicated above.

(4) Dealing with environmental information by the making of miniatures. An excellent point of making miniature models, trainees can show their environment

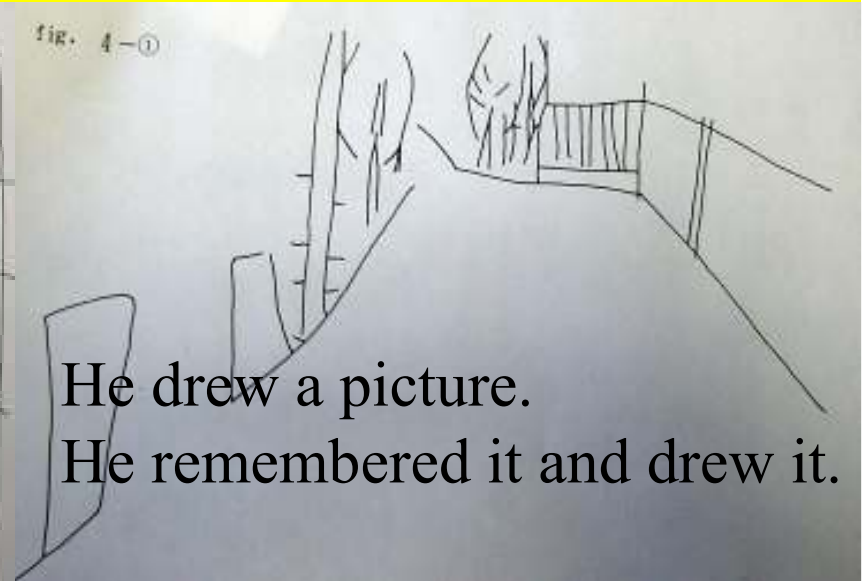




步行補助具 ⇒ 環境把握器



illustration

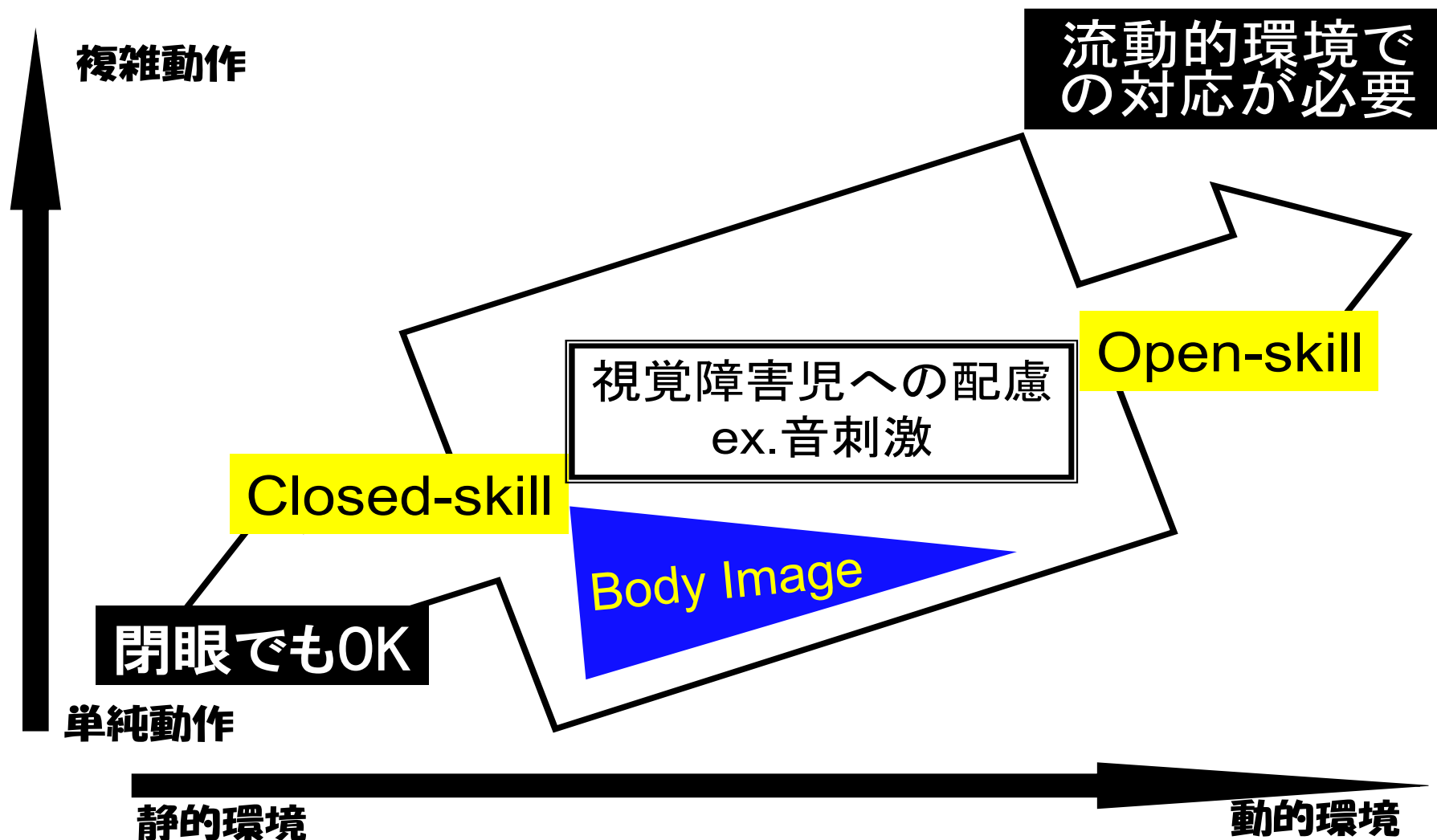


He drew a picture.
He remembered it and drew it.

体育指導⇒学習指導の基盤

Closed-skill（閉じた技能）：基礎技術

Open-skill（開いた技能）：応用技術



国立特別支援教育総合研究所 田中総括研究員

視覚障害生徒の スポーツ活動の工夫



サッカー成年男子監督の鈴木重男さんとともに道高等盲学校のレスリング部を指導している。2回戦で元学生チャンピオンの佐藤新選手（奈良）に敗れたものの、初戦は1分39秒に見事なフォール勝ち。しかし、弱技歴は極めて浅い。札幌高三年のとき始めたのですが、大学（北星学園）では全くやらず昨春の卒業後、再びやり始めたのです。いわば素人です。これといった得意技もな

国体群像

弱視を「フォール」

自らも先天性の白内障で、左目は光がよつやわかる程度。右は裸眼で

く、相手を倒して肩をマットにつけることしか考えません。

〇・〇六、矯正しても〇・三の視力にしかならない。札幌盲学校時代の恩師であ

伝うようになり、今後は同校の英語の先生にレスリングは、視力障害

田中良広さん(25)
—レスリング・成年男子フリースタイル57kg級

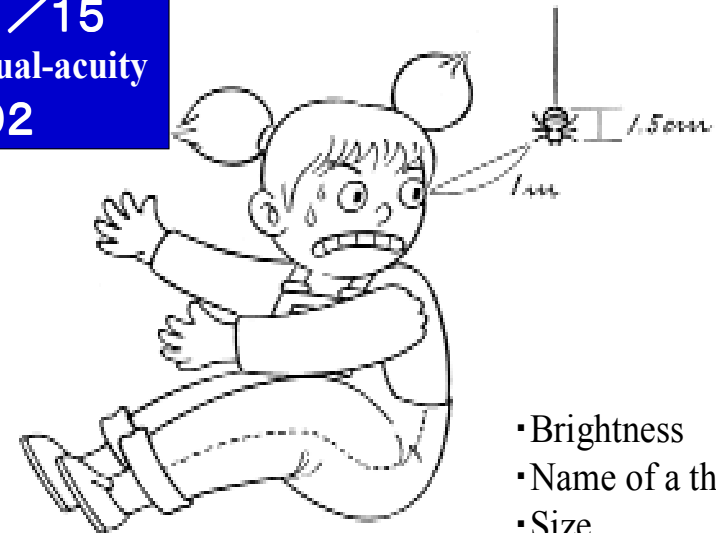
る鈴木さんが、一年半ほど、較的カバーできる弱技の前に生徒たちにレスリングを教えたのを聞いて手に入り、一緒に練習してき

重複障害児の個に応じた指導



$0.3 \times \text{Distance m} / \text{Size mm}$

$0.3 \times 1 / 15$
Estimate visual-acuity
 0.02



- record
- Brightness
 - Name of a thing
 - Size
 - Color

金芳堂「視覚・聴覚・言語障害児の医療・療育・教育」より

日本の特別支援教育 Inclusive Education

統合教育

1972年
高雄市



1971年
台中市



1970年
韓 繼綏老子
台湾の台南駅



台湾の統合教育 1960年代から
American Foundation for Overseas Blind

1975年

盲学校から普通高校への入学は、日本最初の統合教育

(13) 11版 昭和50年(1975年) 6月3日 火

田中良広氏と中学部同期

「僕はいくつ歳が経ったからだ。」

だが、若田君の普通高校での生

産を改める契機口としたい」と話

活が、このように円滑に進むには関係者の厚された努力があった。まず、札幌盲学校の担任だった鈴木重男先生が、北星学園男子高校の近くのアパートに、若田君と移り住んで、若田君といっしょに入学した弱視の生徒と三人で共同生活を始めた。鈴木先生は、二人の朝食と昼の弁当をつくらせてから別の学校へ出勤、夜は夕食をつくる毎日を送っている。

鈴木先生の調査によると、米國などでは、盲人を普通人といっしょの機関で教育してゆく運動が盛んで、盲人の約五割が知能などの障害がないかぎり、高等教育機関へ進んでいる、という。

また、若田君の教科書、試験問題の点字化、点字版の使いやす

さ、その中には、若田君のよう

てれす「一」

教育

昭和50年2月、札幌盲学校で、若田君は月八人入学を希望したが、今はまだ一人も入校していない。理由は、盲学校の点字化、試験問題の点字化、点字版の使いやすさ、その中には、若田君のよう

盲人の普通高校入学

苦手な体育もこなす

関係者の努力で問題を解決

札幌盲学校の校長、田中良広氏は、盲人の普通高校入学を希望する者が、今はまだ一人も入校していない。理由は、盲学校の点字化、試験問題の点字化、点字版の使いやすさ、その中には、若田君のよう

障害のある児童及び生徒のための教科用特定図書等の普及の促進等に関する法律2008.6

①教科書発行者は、標準教科用特定図書等の発行の努力義務を負う。

②教科書デジタルデータのデータ管理機関への提供を教科書発行者に義務付け、ボランティア団体等の拡大と諸島の作成者に提供。

教科書データの活用
点字教科書
拡大教科書

視覚障害
特別支援学校の
センター的機能の発揮

特別支援学級・通級による指導 制度から
特別支援教室Resource Room制度

特別支援教育を推進するための制度の在り方について(答申) 平成17年12月8日

中央教育審議会

特別支援
教室 I

ほとんどの時間を特別支援教室で特別の指導を受ける形態。

特別支援
教室 II

比較的多くの時間を通常の学級で指導を受けつつ、障害の状態に応じ、相当程度の時間を特別支援教室で特別の指導を受ける形態。

特別支援
教室 III

一部の時間のみ特別支援教室で特別の指導を受ける形態。

日本の 特別支援教育の 今後の予想

特別支援学校

小学校・中学校の通常の学級

特別支援学級

通級指導教室

センター的機能

特別支援学校

幼稚園・高等学校
小学校・中学校の通常の学級

特別支援教室

特別支援学級
通級指導教室

個別の
教育支援計画の
作成

個別の
指導計画の
作成

ギフテッド
外国人児童生徒

不登校・虐待関係等を含めた
特別の教育的ニーズへの対応

韓国の
皆様方と
障害児のために
お祈り申し上げます